

デビークの悪癖に対する効果について

小山正雄・天野 亘・斎藤 克

(福島県養鶏試験場)

Effect of Debeeking on Cannibalism in Laying Hens
Masao KOYAMA, Wataru AMANO and Sugure SAITOH
(Fukushima Prefectural Poultry Experiment Station)

1 はじめに

育雛過程での悪癖は、気象要因、飼養管理及び飼料養分上の要因、更には鶏舎構造等が複雑に絡み合って発生し、その防止は容易ではないとされている。また、幼雛期の断喙後に発生する肉芽が飼料摂取行動に及ぼす影響についても不明な点が多い。

そこで、悪癖防止のために、幼雛期に行う断喙の場合における断喙日齢と断喙程度が嘴の伸長と悪癖の発生に及ぼす影響(デビークの効果)について検討した。

2 試験方法

(1) 供試鶏：昭和62年4月22日に餌付けの当場産の福島クロスP200羽を用いた。

(2) 区の構成：表1のとおり。

表1 試験区分

区	断喙時期	断喙程度	給餌方法	羽数
1	—	—	不断給餌	25羽
2	—	—	制限給餌 ¹⁾	〃
3	6日齢	2/5	〃	〃
4	〃	1/2	〃	〃
5	14日齢	2/5	〃	〃
6	〃	1/2	〃	〃
7	21日齢	2/5	〃	〃
8	〃	1/2	〃	〃

注. 1)：体重が1区の70%程度となるよう8週齢から17週齢まで制限給餌とした。

(3) 試験期間：昭和62年4月22日から8月19日までの119日間とした。

(4) 供試飼料：0から35日齢は市販の幼雛用飼料〔粗蛋白質(CP)19.5%，代謝エネルギー(ME)2,950 kcal/kg〕，119日齢までは大雛用飼料(CP14.0%，ME2,700 kcal/kg)を給与した。

(5) 育雛方法：35日齢まで電熱バッテリー育雛器，36日齢以降は中大雛ケージに収容した。

(6) 嘴長測定：断喙後4週ごとにノギスにより鼻腔端から嘴の先端までの長さを測定した。

(7) 断喙方法：各々6日齢，14日齢，21日齢時に嘴長を測定の上，嘴上の2/5及び1/2の位置に印を記し，電

熱デビーカーにより断喙した。

(8) 飼養管理及び衛生プログラム：当場の慣行により実施した。

3 結果及び考察

試験に供した鶏舎は、北及び西面1.8mを隔てて高さ1mの塀で囲まれ、南側6.7mの位置に別鶏舎があり、鶏舎の北窓面はビニールで覆われ、東西面は閉戸されていることから、風は規制される構造となっている。このような中で鶏舎内の温湿度は高低の日々が断続化し、鶏舎内は無風に近く、悪癖が発生しやすい環境下で推移した。

嘴の伸長は、無断喙の場合には13~14週齢ころから緩慢となり、16週齢以降ではほとんど伸長せず、嘴長は18~19mmに収束した。

一方、断喙した場合には断喙日齢，断喙程度により若干の差があるものの、13~17週齢以降の伸長は軽微であった。すなわち，断喙区における嘴の伸長は，2/5断喙区では嘴長が14~15mmに，1/2断喙区は12~13mmに収束する傾向にあった。

表2 嘴の伸長(119日齢時)

無断喙・不断給餌	18.9(mm)
無断喙・制限給餌	18.1
6日齢・2/5断喙・制給	15.3
6日齢・1/2断喙・制給	12.7
14日齢・2/5断喙・制給	14.2
14日齢・1/2断喙・制給	12.3
21日齢・2/5断喙・制給	14.1
21日齢・1/2断喙・制給	12.6

注. LSD=1.04 (P<0.05)

悪癖は，無断喙・不断給餌区にあっては，5週齢半ばころから10週齢(嘴長13~17mm)に発生し，無断喙・制限給餌区にあっては，5週齢から13週齢前(嘴長12.5~17mm)に発生した。また，6日齢2/5断喙・制限給餌区は，8週齢半ばころから15週齢半ば(嘴長12~15mm)ころに，6日齢1/2断喙・制限給餌区は10週齢から11週齢(嘴長11~12mm)にかけて，21日齢2/5断喙・制限給餌区は9週齢(嘴長11mm)に悪癖の発生が見られた。なお，14日齢2/5及び1/2断喙・制限給餌区，21日齢1/2断喙・制限給餌区では，悪癖の発生はなかった。

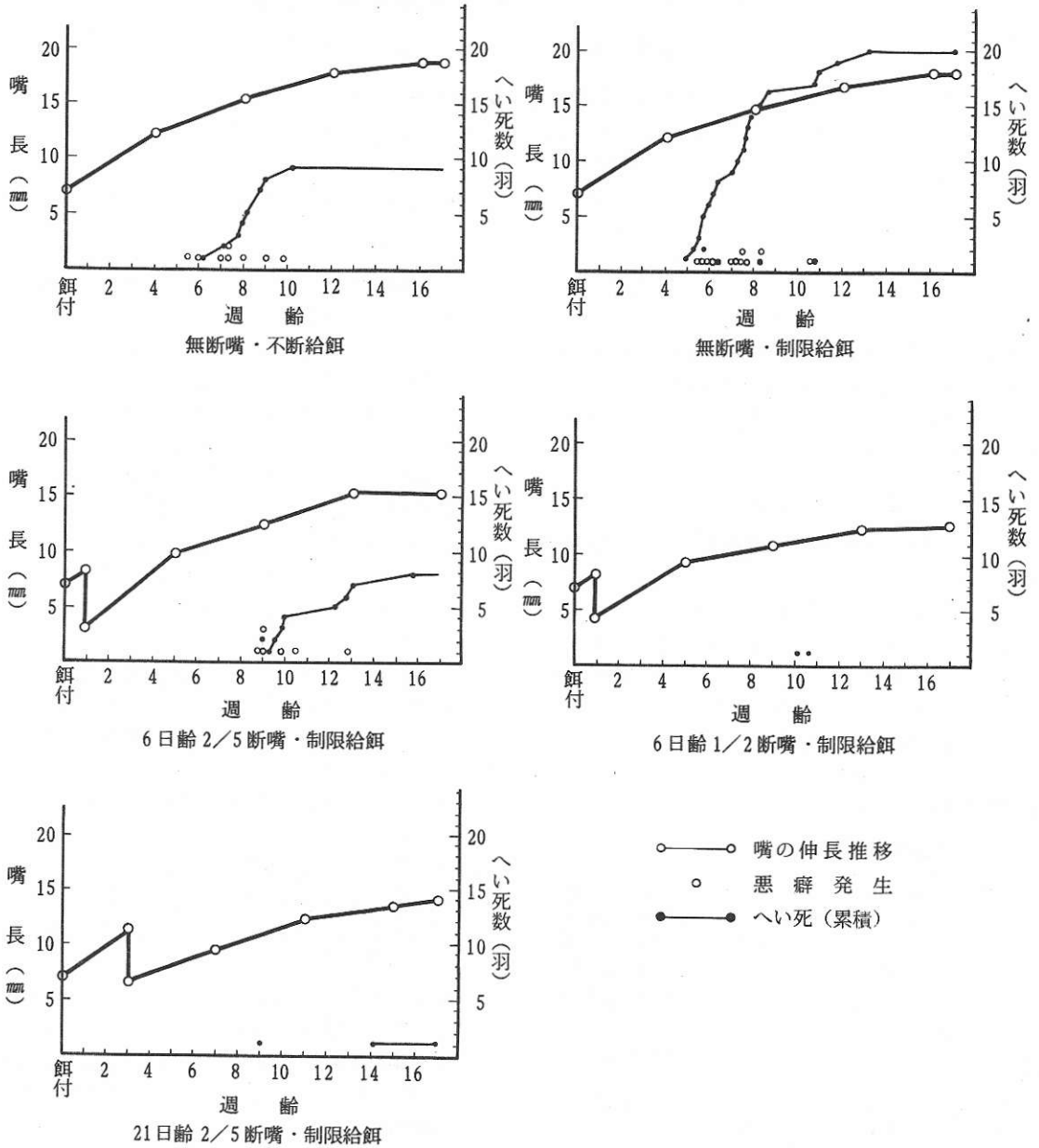


図1 嘴の伸長と悪癖発生との関係

各処理区の悪癖発生時の嘴長は、無断嘴・不断給餌雛の4から10週齢時の嘴長に相当し、11~15mmであった。

また、悪癖は、断嘴時期が早く、断嘴程度が浅いと比較的早く発生し、時間的にもかなり長引くものの、断嘴時期を遅めに、かつ深めに行うと一時的な発生に止まった。これは、深い断嘴により肉芽が発生し、鶏の「尻つつき」行

動が抑制されたものと考えられた。ただし肉芽は、採食行動に悪影響を与えることも考えられ、21日齢 1/2 断嘴では飼養管理上問題である。

したがって、悪癖の発生を防止し、かつ肉芽の発生を防止するためには14日齢ころに2/5程度の断嘴を行う方法が最も効果的と考えられた。